

1. 評価報告概要表

作成日 平成19年12月26日

【評価実施概要】

| | |
|-------|--|
| 事業所番号 | 1170800807 |
| 法人名 | 有限会社 新生・ケア・コミュニティー |
| 事業所名 | グループホーム オ・ハナ |
| 所在地 | 343-0046 埼玉県越谷市弥栄町3丁目43-189 (電話) 048-970-4848 |

| | |
|-------|--|
| 評価機関名 | 社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター |
| 所在地 | 330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ |
| 訪問調査日 | 平成19年12月21日 |

【情報提供票より】(平成19年11月30日事業所記入)

(1) 組織概要

| | | | |
|-------|------------------|--------|--------------------------|
| 開設年月日 | 平成 15 年 10 月 1 日 | | |
| ユニット数 | 1 ユニット | 利用定員数計 | 6 人 |
| 職員数 | 10 人 | 常勤 | 4 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 6.3 人 |

(2) 建物概要

| | |
|------|----------------------|
| 建物構造 | 木造造り 2階建ての1階～2階部分 |
|------|----------------------|

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | | |
|---------------------|----------------|----------------|--------------|---|
| 家賃(平均月額) | 40,000～45,000円 | その他の経費(月額) | 20,000円 + 実費 | |
| 敷金 | 無 | | | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 無 | 有りの場合 償却の有無 | 有 / 無 | |
| 食材料費 | 朝食 | 円 | 昼食 | 円 |
| | 夕食 | 円 | おやつ | 円 |
| | または1日当たり | 1,500 円 | | |

(4) 利用者の概要(11月30日現在)

| | | | | | |
|-------|-----------|------|------|----|------|
| 利用者人数 | 6 名 | 男性 | 0 名 | 女性 | 6 名 |
| 要介護1 | 1 名 | 要介護2 | 1 名 | | |
| 要介護3 | 1 名 | 要介護4 | 1 名 | | |
| 要介護5 | 2 名 | 要支援2 | 0 名 | | |
| 年齢 | 平均 83.1 歳 | 最低 | 78 歳 | 最高 | 91 歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|----------------|
| 協力医療機関名 | 新田整形外科、あまり歯科医院 |
|---------|----------------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、閑静な住宅地にある2階建ての住宅の一部を改造したもので、周囲の環境によく馴染み、居室や共同空間など内部も普通な家庭と同様の間取りで落ち着いた雰囲気が漂っている。日常生活は、食事や入浴など以外は特に日課を定めず、一人ひとりの状態に応じたゆったりとした支援を行っている。そのため、利用者は、居室で休まれたり、リビングのこたつを囲んでテレビを見ながら談話したり、洗たく物を畳んだりしていたが、暖かい季節には植木のある広い庭で日光浴や花づくりを楽しむこともあるという。介護職員の年齢も若年から年配者までおり、バランスがとれ、一般の家族のような雰囲気となっており、いつも利用者の言葉やしぐさをさりげなく受け止めて穏やかな笑顔と態度で介助していた。なお、今後、運営推進会議等外部の意見や要望を踏まえながら介護の質を向上させたり、新たな地域密着型グループホームの理念を掲げ、利用者が地域でその人らしく暮らし続けることを支える取り組みが期待される。

【重点項目への取り組み状況】

| | |
|------|---|
| 重点項目 | 前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回外部評価の改善課題のうち、職員が介護計画の内容を共有することに関しては、個別・具体的なパーソナル情報をもとに、暮らしと心身の状況についての詳細な項目に分類した「サービス計画書」の様式を作成し、各利用者毎の計画案を職員で話し合っって援助内容を決定し、さらに、評価・援助の変更(見直し)にもつなげられる内容となっている。また、カロリー等栄養摂取量についても、定期的に公的機関の栄養士による専門的な指導、助言を受けて食事を提供している。 |
| | 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価への取り組みについては、始めに管理者が全職員に対しその意義、目的の説明をし、その後職員全員で各項目の趣旨やポイントを話し合い、各職員から提出された自己評価をもとに、管理者が最終的に評価票を作成して職員に提示している。 |
| 重点項目 | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は、自治会長、民生委員、老人会会長、地域包括支援センター職員及び家族で構成され、第1回を既に開催した。会議では、ホームの運営状況や利用者の日常生活等を説明し、出席者からも資料提供や意見等が出された。 |
| 重点項目 | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) ホームとしては、常日頃から家族の意向を取り入れたホーム運営や介護を心がけているが、特に、家族の来所時に面談する際など、意見や苦情等の申し出があれば、謙虚に耳を傾けてその解消に向け個別に対応している。また、利用者の心身等の変化があれば随時電話連絡したり、毎月定期的に金銭出納報告と一緒に送付する「オ・ハナだより」で、生活振りや健康状態、行事予定などの情報を提供することにより、家族からの意見、苦情が出しやすい対応に努めている。 |
| 重点項目 | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホームは一般住宅に囲まれ、地域の人々との交流機会に恵まれているため、ホームや利用者に対する理解を深めて頂いたり、交流の橋渡しのため四季毎に刊行する「オ・ハナだより」を配布して、多くの近隣住民と親密に付き合っている。また、自治会へ加入して様々な行事に出たり、清掃などの地域活動にも積極的に参加している。美容師等のボランティアや中学生の体験学習も受け入れており、活発な地域との交流、連携に向けて取り組んでいる。 |

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------------|----|--|--|-------|---|
| . 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 他の事業も含めた法人の理念に「社会の様々な分野に参加する機会を与えられるとともに、～地域における必要なサービスを総合的に提供されるように支援する～」とある。しかし、グループホーム「オ・ハナ」として独自の地域密着型サービスの理念にはなっていない。 | | 法人理念の中に、利用者が地域においてその人らしく暮らし続けることを支援する地域密着型サービスの考え方が提示されているので、この考えを取り入れた「オ・ハナ」独自の理念をつくりあげることが求められる。 |
| 2 | 2 | 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 法人の理念に基づく「オ・ハナ」としての運営方針や生活の目標を玄関、リビングの壁に掲げてあり、ミーティング等の場で管理者から具体的事例による説明を受けたり、申し送りなどの機会に話し合ったりして、共有化への取り組みはできている。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | ホームは多くの一般住宅に囲まれているため、自治会(地区)に加入して様々な催事や環境美化等に参加し、また、美容、植木の手入れ、障子の張り替え等のボランティアや中学生の体験学習も受け入れている。ホームとしても、ホームや利用者への理解を深めて頂く契機及び地域交流の橋渡しの手段として、四季刊行の「オ・ハナだより」を地域に配布している。 | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 職員は、自己評価について、介護サービス内容を客観的な視点から見直すよい機会としてとらえ、管理者から評価の意義、目的の説明、その後各項目のポイントを職員全員で話し合いながら評価し、管理者がとりまとめた。なお、自己評価の結果現れた見直しを要する内容への取り組みは、外部評価の結果とともに今後の課題としている。 | | 今回の自己評価及び外部評価の結果については、関係機関の理解と協力、運営推進会議の意見等も踏まえ、全職員参加のもと具体的な手順と改善計画(シート)によって改善し、サービス向上へつなげる取り組みが望まれる。 |
| 5 | 8 | 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 会議は、自治会長、民生委員、老人会会長、地域包括支援センター職員及び家族で構成され、第1回の会議を開催した。会議では、ホームの運営や利用者の状況を説明するとともに、出席者からも資料提供や意見等が出された。現在、どのように会議を開催し、その結果をいかに運営やケアに活かすかについて検討し始めている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------|----|---|---|-----|----------------------------------|
| 6 | 9 | 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 市の窓口に、ホームのパンフレットや四季刊行の「オ・ハナだより」を置いたり、関係職員に手渡したりしている。その際に、事業の状況や利用者の生活実態及び課題について市担当者と話したり、介護保険に関する情報を入手して説明を受けたりしている。また、できる限り介護相談員にホームへ訪問してもらい、利用者や家族の悩みや要望を聴いて頂くようにもしている。 | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている | 各家族に、利用者のホームでの生活ぶりや健康状態及び行事予定などを掲載した写真付きの「オ・ハナだより」を、毎月金銭出納報告書と一緒に送付している。さらに、家族が来訪した際には体調や生活ぶりを説明したり、記録類を見せたりしているが、心身の状態が急激に変化した時にはそのつど電話で報告することにして | | |
| 8 | 15 | 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族からはできる限り様々な意見を聴かせて頂くためできるだけ来訪をお願いしているが、特に介護度や体調が変化した場合には必ず来訪を求めている。家族が来所した際には職員が面談して、意見、要望等を聴き、記録して申し送り、処遇へ反映するように努めている。なお、家族会の結成についても検討中である。 | | |
| 9 | 18 | 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 職員の交代は事業開始以来少ないが、異動があるときには、利用者に与える心理的ダメージについて職員で話し合って利用者に接することとしている。なお、新任職員が夜勤にあたる場合は、当面管理者と一緒に勤務するように心掛けている。 | | |
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 法人組織として感染症対策、緊急時対策について全職員に受講させているが、資格取得に向けた専門研修やスキルアップのための研修等各種団体の開催通知を受けて職員に周知し、経費はホーム負担で参加させている。受講者は、その結果を他職員に報告することで研修内容を共有したり、認知症に関するテレビ番組を皆で観て話し合うことで理解を深めている。 | | |
| 11 | 20 | 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 県グループホーム協議会及び市のグループホームや有料老人ホーム部会、介護フォーラム等における勉強会や交流会に積極的に参加し、視野を広げるように努めている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------------|----|---|--|-----|-----------------------------------|
| .安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | <p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p> | <p>利用前に自宅や病院等に伺って本人や家族等と面談し、ホームでの生活を説明しながら不安感を和らげるよう話し合ったり、実際に2～3日ホームを見学して頂き、本人をはじめ家族が納得したうえで利用されるように努めている。</p> | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | <p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p> | <p>職員は制服ではなく、思い思いの普段着を着用し、利用者の気持ちに沿って家庭的な雰囲気の中で共に過ごし、支え合い、そして輪づくりに向けたケアに努めている。</p> | | |
| .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | <p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p> | <p>職員は、常に利用者の行動を観察したり、話を聞いてその裏に隠れた心の動きを見逃すことのないよう細心の注意を払って接している。特に、着替え、入浴、夜勤のときなどにゆっくり利用者の思いや意向をキャッチし、実現につなげている。</p> | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | <p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p> | <p>利用前に本人、家族、関係者から得た様々な情報及び利用後一定期間の観察結果等をまとめたパーソナルデータをもとに個別・具体的な「サービス計画書」(案)を作成し、職員間で話し合って援助内容を決定している。なお、その計画書は後日全職員が再確認し、家族からも了解(印)を得ている。</p> | | |
| 16 | 37 | <p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p> | <p>定期的には、6ヶ月に1回、日常的な観察や24時間のケース記録等から把握した生活行動や心身の変化の結果を評価し、援助の内容を見直している。また、期間内でも介護度の変更、急激な心身の変化等があれば随時見直して後日全職員が再確認し、家族からも了解(印)を得ている。</p> | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------------|----|--|---|-----|---|
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 17 | 39 | 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 介護保険のサービス提供による医療連携(加算)については、職員の確保や勤務体制等について行政側と相談し、実現したいと考えている。なお、地域住民に向けたサービスとして、健康情報を記載した四季の「オ・ハナだより」を発行しており、今後、認知症高齢者の家族に対する相談にも応じたい考えである。 | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 利用前の主治医からホームかかりつけ医に変更する場合、主治医の意見を踏まえ、かつ、本人や家族の十分な納得と理解を頂いたうえでの受診としている。なお、かかりつけ医、歯科医による往診は月2回であるが、その受診結果(情報)については、特に症状の変化や薬の変更等の場合に家族に連絡している。 | | かかりつけ医、歯科医の医療受診状況にかかる家族への連絡は、症状の変化や薬の変更等の場合に行っているが、家族としては健康に関する情報は最も知りたいことであるので、月2回の受診結果も毎月の「オ・ハナだより」送付の際などに知らせることが求められる。 |
| 19 | 47 | 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 契約時に、家族に対しターミナルケアの考えや取り組みを伝えるとともに、重度化や終末期における対応について家族、医師及びホームとで繰り返し話し合っ共有化に努めている。また、個々の利用者の身体状態を観察し、状況によりケアに向けた検討や準備を進めることとしている。 | | |
| . その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1) 一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 身体介助の場合は、常に誇りやプライバシーを損ねないよう言葉かけや口調に注意しているが、特に排泄の場面では目立たないよう、1対1でさりげなく介助している。なお、個人情報にかかる資料は、一定場所に管理して持ち出しを禁止し、パソコン作業は管理者が法人本部で行っている。 | | |
| 21 | 52 | 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 日々の暮らしにあっては、食事や入浴、特別な場合以外は特に固定した日課を定めず、できる限り各利用者ごとの生活パターンやその日の体調、気分に応じた生活を送っていただくようにしている。また、散歩や買い物などの外出もその日の天候や利用者の希望によって適宜実施している。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------------------|----|--|---|-----|-----------------------------------|
| (2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | ホームで作った献立表をもとに利用者と一緒にスーパーなどへ食材を買いに行くが、時には近隣の農家から安く買ったり、貰ったりして食材を調達している。調理は職員中心であるが、利用者はできる範囲で手伝ったり、配下膳、食器洗い、テーブル拭きなどを行っている。食事は職員も介助しながら一緒に食べている。 | | |
| 23 | 57 | 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 利用者は、毎日10時から19時までの間いつでも入浴でき、車椅子使用の利用者の方もシャワー浴であるが、週2～3日は入浴できるようにしている。また、ゆず湯や入浴剤を入れて入浴を楽しめるようにしている。入浴したくない利用者には、職員がその気になるよう誘導に心掛けている。 | | |
| (3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 利用者の意見や要望を聞いて、年間を通じ誕生会・敬老会・花見・納涼祭・クリスマス会・新年会等を開催している。実施する場合も職員がリードするのではなく、利用者にとって喜びや生き甲斐となるような働きかけをしている。日常生活面でも、職員中心でない自主的な楽しみや気晴らしに向けた支援を心がけている。 | | |
| 25 | 61 | 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 天候や気分によって、周辺や公園までの散歩、スーパーへの買い物などの外出を支援している。また、季節によって、さくら見物、コスモス狩り、菊花観賞等々気分転換や五感の刺激となるような外出に努めている。 | | |
| (4)安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 施錠することの弊害を管理者、職員とも理解し、玄関ドアに鈴を付けるなどの工夫をし、朝6時から夜7時までの間、鍵は掛けていない。日中、職員は個々の利用者の外出したい雰囲気や言動をとらえ一緒に出かけた後、外出を見守りつつ途中で出会ったような言葉がけをして戻るようにしている。 | | |
| 27 | 71 | 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 自治会主催の避難・防火訓練、業者による消火器等設備の定期点検、消防署立会いによる、特に2階の利用者を安全、迅速に避難する訓練を実施している。非常時における関係先への通報及び連絡網を整備するとともに、近隣住民には四季刊行の「オ・ハナだより」を配布した際、そのつど協力依頼をしている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------|----|--|---|------|-----------------------------------|
| (5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事内容は、ホームで作ったおやつを含む1週間毎の献立表になっており、食事・水分摂取量を個人毎にチェックしている。なお、カロリー、たんぱく質、脂質、炭水化物及び塩分等が利用者にとって適切かどうか、保健センターの栄養士から一定期間の献立表をもとに定期的な助言、指導を受けている。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1)居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 玄関を始めリビング、廊下、台所及びトイレなどの共同空間は、一般家庭同様の間取りで安らげる雰囲気がある。南側には広い庭があって、日光浴や草花づくりを楽しむのに十分なスペースがある。 | | |
| 30 | 83 | 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 各居室は、洋・和室に分かれ、広さも違って、利用者の状態や希望に十分応えられる造りとなっている。ホームで設置したものや退居された方が残されたベッドなどのほか、使い慣れたタンス、机・椅子及び調度品等が置かれ、中には、家族の写真や位牌等も持ち込まれ、個人的な生活の場が確保されている。カーテンや照明も高齢者が生活するのに適切で、部屋の雰囲気に合ったものを使用している。 | | |